

デジタルワイヤレスシステムの安定運用

デジタルワイヤレスシステムのパフォーマンスを最大限に発揮させるには、システムのインストールやイベント、ツアーなどアプリケーションを問わず最善の運用方法についての知識やノウハウを、適切に実行することが重要です。それにより、現場で多くのワイヤレスチャンネルが必要な場合にも、1波のみ必要な場合も、使用するワイヤレスシステムの能力を最大限に活用できます。

以下に紹介する方法により、Line 6デジタルワイヤレスシステムのパフォーマンスをフルに発揮させてください。

アンテナ配置

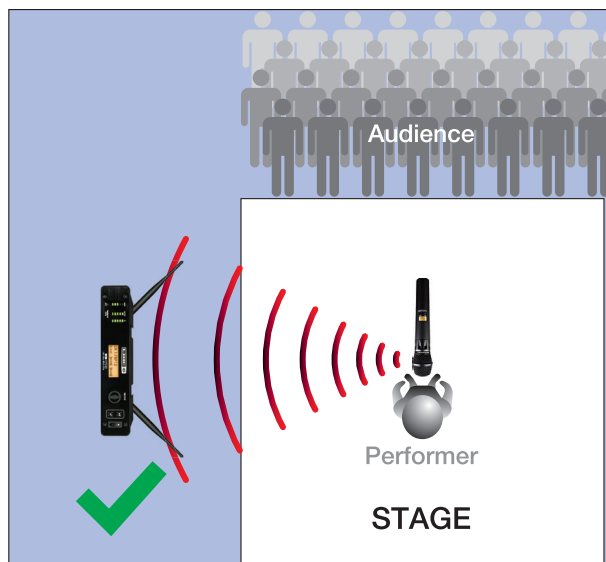
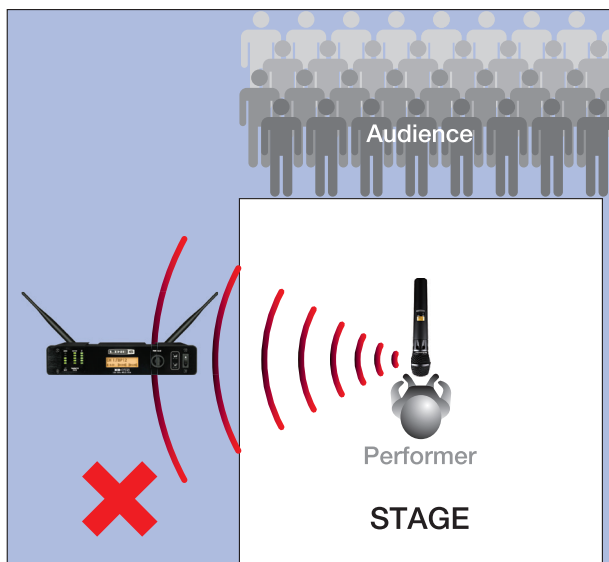
Line 6デジタルワイヤレスシステムは、ワンステップで簡単にセットアップでき、ライセンス不要で運用できるなど様々なメリットがあります。そのため、使用の事前申請やインターモジュレーション(相互変調混信)の計算、チャンネルプランの作成やハードウェア依存の周波数マッチングなどを心配する必要はありません。そして簡単なセットアップでシンプルに運用できるため、現場ではアンテナのセットアップや音作りに集中できます。正しいセットアップと適切なアンテナ配置により、通信範囲全体で最高のシステムパフォーマンスが実現できます。



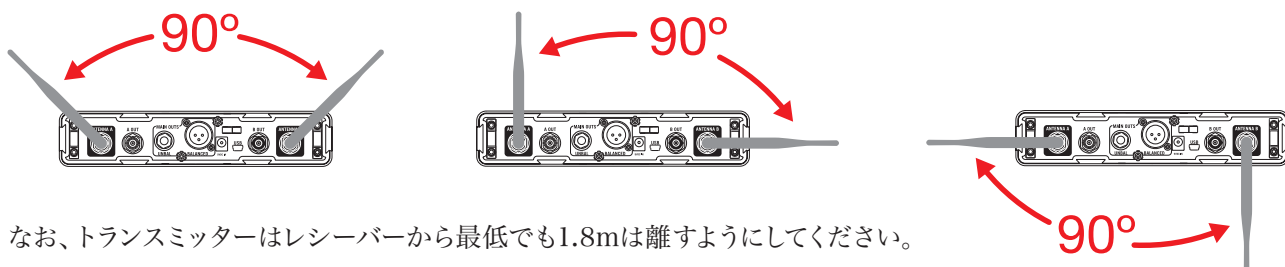
デジタルワイヤレスシステム
XD-V75 Series

アンテナの向き

セットアップの際は、ワイヤレストランスミッターとレシーバーを向かい合わせるのがベストであり、それによって以下の図のように両方のアンテナを活用できます。



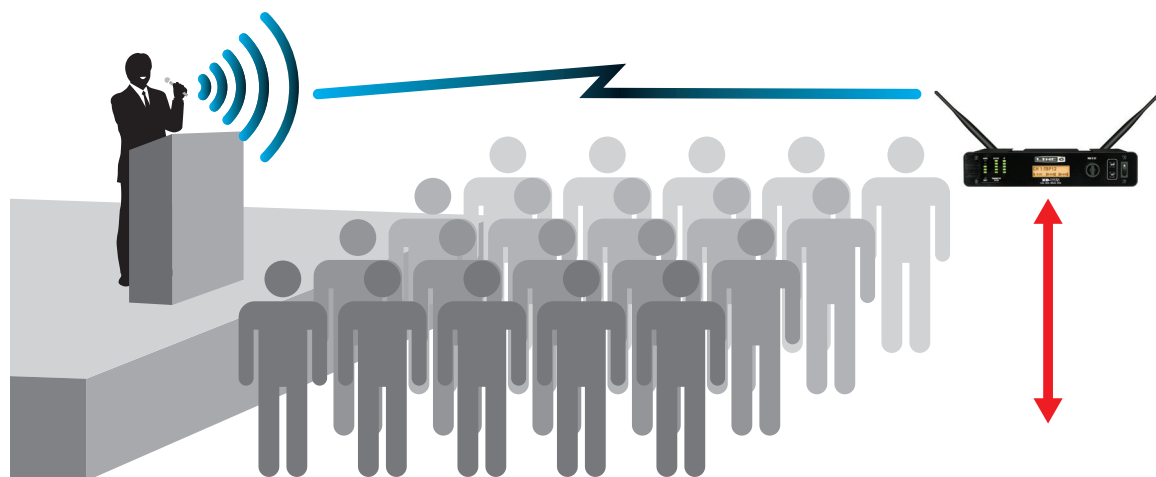
その上で、レシーバーのアンテナは90度の角度に開きます。以下の例はどれも有効ですので、その場のセットアップに最適な方法を選択してください。アンテナを正しく配置すると、一方のアンテナへのシグナルが弱くなると他方へのシグナルが強くなるため、パフォーマンスエリア内を自由に動くことが可能です。



なお、トランスミッターはレシーバーから最低でも1.8mは離すようにしてください。

アンテナの高さ

アンテナを配置する場所は、電波の反射を避けるため床より最低90cmは上に設置してください。オーディエンスの頭より上の位置にあると理想的ですが、頭より極端に上にしたり天井に近づけたりする必要はありません。適切なアンテナの高さにすることで、デジタルワイヤレスシステムの通信範囲を最大限に利用できます。



2.4GHzの電波は、ある程度は壁を通過したり、障害物を回りこんだりしますが、可能な範囲でトランスミッターとレシーバーが直接見通せる関係に維持できるのが理想です。リモートアンテナを使う場合を除き、レシーバーをラックの下部に入れるのは避けてください。また、コンピューターやワイヤレスアクセスポイント、インイヤーマニターシステムや電子レンジなど、電波(電磁波)を生成する機器のそばには設置しないように注意してください。

マイクの持ち方

ハンドヘルドマイクを持つ場合、マイクグリルにかからない程度に上の方を持つようにしてください。下の方を持つと手がマイク内部の送信アンテナと重なり、電波が弱くなることがあります。

